**学習・研修ツール『適切なケアのための基礎知識～よくみる症状と疾患』**

**このツールの使い方**

**１．介護職員に求められる症状や疾患に関する基礎知識**

　このツールは、身障協の会員施設が初任者の介護職員に実施する研修の素材として活用していただくことを想定して作成しました。

常時介護と医療的ケアを必要とする障害者への支援を行う障害者支援施設でケアを提供していくうえでは、介護職員も利用者に関わる症状や疾患等に関する基本的な知識を身につけておく必要があります。

そのため、症状・疾患とケアを関連づけて学習する参考資料としてこのツールを作成しました。症状を観察し、介護職員としてどう対応すべきかを学習するうえでの材料としてお使いください。症状を見極める観察力はどの職員にも必要とされるものです。日々の実践や様々な機会を活用して研鑽を深めていただきたいと思います。

**２．各施設での研修等に活用する「素材」としてのツール**

障害や疾患は実に多様であり、利用者の状態像、医療・看護の体制等の状況は、施設ごとに大きく異なります。そのため、このツールでは、多くの施設に比較的共通する症状や疾患を中心にまとめています。また、症状や疾患に関する知識は膨大ですので、このツールでは基本的な知識に限定して掲載しました。

そのため、このツールはあくまで「素材」といえます。活用にあたっては、これをベースに各施設の状況等を踏まえて必要な追加・修正等を行い、それぞれの施設向けにカスタマイズした「ツール」を作っていただきたいと思います。

各施設で既に作成しているマニュアルの情報をツールに加えるとともに、逆にツールの内容で活かせる箇所は、各施設のマニュアルに反映していただければと思います。

また、障害や疾患に関する知識は、時とともに更新されていきます。例えば心肺蘇生法国際ガイドラインは5年ごとに改定され、時には大きな変更が加えられることがあります。こうした動向をフォローすることも重要です。

**３．自己学習を重ねる**

冒頭でもふれたように、このツールは、各施設で初任者クラスの介護職員研修で使う教材の素材として作成されました。しかし、掲載している用語は決して易しいものではなく（医学用語をベースとしています）、あえてふりがなや詳細な説明はしていません。

専門職が専門性を高めていくうえで、自ら学ぶ姿勢は欠かせないものであり、介護職員も例外ではありません。医学用語に限らず分からないことがあれば、それを自ら調べることが、より深い学習につながります。このツールを出発点にして、自己学習を進め、専門性を高めていただければと思います。

1

**各施設の状況**

**・利用者の状態像**

**・医療・看護等の体制　　等**

追加・修正

追加・修正

**各施設のマニュアル**

**各施設での追加事項**

反映等活用

**活 用**

**各施設での初任者研修等**

図：「学習・研修ツール」活用の流れ（イメージ）

**4．その他の留意点**

〔「フローチャート」の活用方法〕

第1章「症状別解説」では、特に緊急を要する症状については、対応の流れを示したフローチャートを掲載しています。フローチャートは、本来できるだけ同時進行で行うべき事項も、便宜上、分解して表示しています。また、施設の状況等によっては、複数の職員で分担できる場合もあれば、1人で順番に対応せざるを得ない場合もあります。そのため、フローチャートはあくまで基本的な流れを理解するための参考資料としてご活用ください。

また、訓練なくして咄嗟の対応はできません。フローチャートを参考に、実際に施設でシミュレーションし、必要なアレンジを加えて訓練を重ねることが不可欠です。

そして、フローチャートは、読み手が基礎知識をもっていることを前提に作成しています。必ず、第1章や第2章の基礎知識を事前に身につけたうえで、フローチャートを参考にしてください。基礎知識なしでは対応を誤る恐れがあります。

〔用語について〕

このツールで記載している、「バイタルサイン」とは、「脈拍」、「呼吸」、「体温」、「血圧」、「意識」、「動脈血酸素飽和度（以下、SpO2）」の状態を指します。

2